

～あなたはこのまちに、こんな優しさがあることをご存知ですか？～

日々忙しい生活の中で、ふとした瞬間に立ち止まって気づくことがあります。それは、私たちの暮らしの中にひっそりと存在し、でも確かな役割を果たしている、そんな無償の思いやり。羽曳野市で運行されている無料の「公共施設循環福祉バス」も、その一つです。



「ちょっといいが
そこにある」
羽曳野

「公共施設循環福祉バス」の年間利用者数約10万8千人

(令和7年度調べ)

このバスは、単なる交通手段ではありません。特に高齢者にとっては、毎日の大切な外出手段であり、孤独を防ぐための安否確認の場でもあります。バスのドライバーも、単なる「運転手」ではなく、地域コミュニティの大切な一員として、利用者一人ひとりを見守り、温かな声かけを通じて安心感を届けています。バスに乗ることで、利用者同士の笑顔や会話が生まれ、まるで昔ながらの町内会のような温かい絆が広がります。

実は、このような無料で運行される「公共施設循環福祉バス」は、大阪府内でも非常に珍しい存在です。無料で利用できるバスは、南河内では羽曳野市と松原市だけの取り組みであり、市が直接運営しているのは、羽曳野市のみとなっています。こんなサービスを提供できるのは、地域に根差した深い信頼とつながりがあるからこそ。市民にとって、このバスはただの交通手段を超えて、毎日の生活に寄り添う大切な「心の支え」となっているのです。

そして、この「公共施設循環福祉バス」を支えているのが、地元住民との深い交流を大切にしているベテランドライバーたちです。彼らの温かい見守りと、安全運行へのこだわりが、地域の安心感を守り、絆を深めています。彼らの言葉からは、ただの運転手ではなく、「地域の一員」としての誇りと責任感が伝わってきます。今回はそんな「公共施設循環福祉バス」を支えるベテランドライバーたちのインタビューを中心に彼らの温かい見守りと、地元住民との深い交流を通してこの街のあたたかさをお届けします。



バス運行ルート・時刻表
はこちら→



生まれも育ちも羽曳野
市内の地理は隅々まで把握している



飯倉永造さん (勤続 9 年目)

以前は 10 トントラックや
重機の運転経験も積んだベテラン



芝池幸恵さん (勤続 11 年目)



—循環バスを運転する中での「やりがい」や、魅力について教えてください—

阪倉：やはり市民の皆さんとの距離が近く、フレンドリーに接することができる点です。

「お母ちゃん、今日はどこ行くん？」と声をかけたりして、日常の何気ない会話を楽しんでいます。単なる移動手段ではなく、高齢者の方々が外に出るきっかけ作りをお手伝いしている感覚ですね。

芝池：お客様から「ありがとう」「助かっている」と笑顔で声をかけていただけることが一番の励みになります。ご高齢の方が目的地に向かう後ろ姿を見送ると、安全に運行しようという意識がより高まりますね。

—利用者の方々との印象的なエピソードはありますか？—

阪倉：2号車は特に賑やかですね。乗客の方々同士でお互いの安否確認をされていて、誰かが入院したと聞けば「早く良くなってまた出てこなあかんで」と電話し合ったりしています。まるで「走る遠足」のような温かい雰囲気があります。

芝池：高齢者の方にとって、このバスが「最終的な移動手段」になっているというお話をよく聞きます。免許を返納したり、自転車に乗れなくなったりした方が、このバスがあるから買い物や病院、体操教室に行けると喜んでくださっています。

—無料運行であることの意義をどう感じていますか？—

阪倉：「無料だからこそ、交通費を気にせず毎日活動できる」

という方が多いです。もし有料だったら、これほど頻繁に外出はできないという声をよく聞きます。

芝池：利用者の皆さんは「いつ有料になるのか?」「いつか無くなってしまうのではないか?」という不安も持たれています。市が努力して無料で続けていることを、とてもありがたいと感じてくださっています。

—安全運転や高齢・障害のある方への配慮で気をつけていることは？—

阪倉：急ブレーキを避け、ゆっくり、着実に走ることを心がけています。また、お喋りに夢中で違う号車に乗ってしまうこともあるので、声をかけてケアするようにしています。

芝池：運転手同士で昼休みに情報共有をしています。「あの方は耳が少し不自由だから、マイクで大きめにアナウンスしよう」とか「最近足が弱っているから乗り降りに気をつけよう」といった連携プレーを大切にしています。

—最後に、市民の皆様へメッセージをお願いします。—

阪倉：乗ったことがない方は、ぜひ一度気楽に乗ってみてほしいです。一度1周してみれば、羽曳野の意外な景色や新しいコースが見つかって面白いですよ。

芝池：これからも皆さんの「福祉の足」として、安全に走り続けていきたいと思っています。笑顔で乗ってくださるのが、私たちにとって一番嬉しいことです。

市役所担当の声

市では市民の皆様へ寄り添った施策を推進しています。その一環として、「公共施設循環福祉バス」を無料で運行する取り組みは、近隣市や大阪府内でも数少ない貴重な事業だと考えております。このバスが、市民の皆様にとって大切な移動手段であり、安心して外出できる場となっていることを大変嬉しく思っております。高齢者の方々が出かけやすい環境作りや、利便性向上の為に停留所再配置などの取組の他、このサービスを長く維持していくためには、コスト面での工夫が必要でもあり、市としては、バスの車体広告を通じて企業にもご協力をお願いし、その費用を補填することで、無料での運行を支える仕組みを作るなど、継続的に市民の福祉に貢献できるよう努力を惜しまず取り組んでおります。

これからも、市民の皆様のために全力でより良いまちづくりを目指してまいります。



総務部管財用地課
萬田 課長